

## 令和7年度下関市立歴史博物館協議会 議事録

### 1. 開会

事務局より開会を告げる

### 2. 教育長挨拶

本日は、ご多忙のところ博物館協議会にご列席賜り、厚くお礼を申し上げます。歴史博物館は、昨年11月をもって開館から9年を迎えました。この間、展示を中心にさまざまな活動を展開し、多くの方々にご好評をいただいております。これも偏に皆様方のご理解・ご協力の賜物であると深く感謝しているところです。

今年度は、本年が昭和100年にあたることを記念した特別展として「昭和100年記念特別展 思い出の下関」を開催いたしました。本展では、絵図や写真などから、昭和の下関の出来事、風景やその移り変わりを紹介し、懐かしい昭和の下関の姿を振り返るもので、連日観覧者で賑わいました。とりわけ、65歳以上の方には多くのご来館をいただきました。また、11月からは、特別展「手紙で辿る毛利家の喜怒哀楽」を開催いたしました。こちらは、戦国時代や江戸時代に交わされた毛利家の手紙を楽しく分かりやすく読み解き、毛利家の日常や家を揺るがす大事件などを紹介する展示となっております。多くの方に喜んでいただけたと思います。このほか、3本の企画展を開催しております。

博物館では、これら展示活動に加え、出前講座や職場体験学習、今年度から教育委員会で取り組んでおります「下関学（楽）推進事業」での歴史文化授業への協力など、教育普及や博学連携に努めております。

その他ですが、教育委員会では、わくわくする教育活動を進めるということで、「わくわくバスツアー」を予算化して、児童・生徒たちが博物館や美術館に足を運び、本物の歴史、本物の芸術にできるだけ触れ、ふるさと下関の良さを体感できるようなバスでのツアーを実施し、学校の活動を後押ししているところです。

今後とも、下関の歴史情報の発信継続に努め、地域に根ざした魅力的な展覧会を開催するとともに、調査研究や普及活動にも精力的に取り組み、歴史博物館の存在意義を高めてまいります。

本協議会は、様々なお立場の委員の皆様から、博物館運営に関するご意見、ご助言をいただいた上で、これからの博物館の運営の改善に繋げ、開かれた博物館づくりを一層推進していこうとする趣旨で開催するものです。本日

は忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。そして、まずこの下関はたくさんの方の歴史、伝統文化がありますから、それを何とかたくさんの方に紹介できるそのような場面をたくさん作っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. 委員紹介

手元の協議会配付資料（以下、協議会資料）の「委員名簿」をもって替える。

※協議会資料については、別添参照。

### 4. 会長挨拶

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。こうして皆さんの顔を見られることを非常に楽しみにしておりました。

私は、下関観光協会の会長をやっておりますので、観光のお話を少しさせていただきます。下関は、昨年、星野リゾートのホテルが開業して、火の山の再開発も徐々に進んできています。そして、ずっと後が見つからなかった中之町にあります東京第一ホテルが、新たに大阪屋ホテルと名前を変えて、現在営業しているところです。宿泊施設も大分揃いましたし、そういう追い風があり、この下関の観光も非常に今から楽しみなものになるのではないかなと思います。

また、JR西日本のデスティネーションキャンペーン（DC）、今年の秋、山口県が1つのDCであり、来年はアフターDCといいまして、1年後まで宣伝をしていただける。

そして、再来年が、維新160年。河豚食解禁140年という年に当たります。そういう意味におきましても、観光というものは、非常に下関において追い風にはなっております。しかし、残念なことに、それがまだ、観光という表の部分。もっと根の深い文化とか歴史に、人の目が向いてくれるのは、まだ少し時間のかかることかなと思っています。

それぞれの観光のいろんな追い風を、この長府という町にスポットを当てていただいて、たくさんの方がここに足を運んで、歴史博物館で歴史を学ぶ。自分たちの町の歴史を学ぶ。そして日本の歴史を学ぶということをぜひしていただきたいなというふうに思っております。

この歴史博物館というのは、歴史文化のハブになる、非常に素晴らしいところではないかなと思っておりますので、皆様のご協力をいただきまして、すばらしい博物館にしていただきたいと思いますというふうに思っております。

す。

今日は、事業報告並びに事業計画というところで、審議事項ございますので、皆さんの忌憚のないご意見をいただきまして、スムーズな会議進行ができますよう、お願いを申し上げます。

## 5. 議事

### (1) 令和6年度事業報告

会長

議事に入る旨伝え、令和6年度の実業報告を事務局へ要請する。

館長

協議会資料2～5頁「令和6年度事業報告」を読み上げる。

(以下について、一部補足)

- ・協議会資料3頁「2. 展示業務(4) その他 ②イベント」について、企画展関連イベントの企画展とは、美術館と連携して開催した「田上菊舎展」別紙4の参加人数「16」というのは、選考された方の人数であり、参加者はこれより多い。
- ・協議会資料5頁「5. その他(3) 日清講和記念館耐震診断・補強計画」について、記念館の躯体自体は、想定していたよりも堅牢な状態であり、若干の耐震改修が必要と判断された。今後、保存活用計画の策定を行い、その後、耐震改修等を施す予定としている。

会長

令和6年度事業報告について、意見聴取・質疑応答を行う。

委員

博物館収蔵資料の他館への貸出について、年報を確認したところ、貸出先は記載されているが、貸出資料について表記がないのはなぜか。

学芸員

当館資料の表記がないのは特に理由はない。今後、具体的に何を貸し出したか分かるように、明記するようにしていきたい。

委員

職場体験について、体験した学生達から、将来、学芸員になりたいというような話はあったか。

学芸員

毎年、近隣の学校から職場体験に来ているが、社会が好きとか興味があるという動機で来る学生が多い。

こちらで体験して、その後、もっとこうやりたいとか、調べたいというふうな方に向かうといいかなとは思う。

また、高校生等、個別に飛び込みで、将来、学芸員になりたいので話を聞きたいと、博物館に来るパターンも稀にある。

委員

日清講和記念館耐震診断・補強計画について、何年かけて実施するか見通しはあるか。

館長

予定として、保存活用計画を2ヵ年かけて策定する。その後、実施計画等が順調にいったとして、令和11～12年頃、工事をスタートできればというスケジュールで予定している。

会長

耐震の強化だけで、リニューアルというわけではないのか。

館長

登録有形文化財であり、昔の形をどこまで遺すかというところもあり、どれだけ改善していくのかは、今後の検討課題になる。

委員

動画コンテンツは、子ども達に非常に好評。わくわくバスツアーについては、予算をつけていただき、バスでここまで来れるというのは、大変有難い。

委員

資料の公開体制について伺いたい。

館長

特別観覧という制度があり、申請を受けて、こちらの博物館の方で学芸員立ち会いのもと、資料の閲覧に対応している。

学芸員

特別観覧の件数が、今年度、この2月現在までで69件、毎年70件前後になる。

会長

令和6年度の事業報告について諮り、委員全員の拍手にて承諾とした。  
令和7年度の事業経過報告を、事務局へ要請する。

## (2) 令和7年度事業経過報告

館長

協議会資料6～9頁「令和7年度事業経過報告」を読み上げる。  
(以下について、一部補足)

- ・協議会資料6頁 「2. 展示業務(3) 特別展示」 について、  
教育長の挨拶にもあった昭和100年を記念して開催した特別展「思い出の下関」は、市民の観覧者数が大変多く、コロナ禍後の特別展では、最大の入館者数となった。
- ・資料に記載はないが、令和7年10月7日、三笠宮彬子女王殿下が博物館にお成りになった。

会長

令和7年度事業経過報告について、意見聴取・質疑応答を行う。

委員

博物館の環境維持のために必要な光熱水費が高騰しているが、苦勞しているのではないか。厳しいようであれば、このメンバーでぜひ応援をしていきたいと思う。

館長

博物館では、温湿度の管理を継続してやっているのですが、電気は使用し続けている。苦しいところではあるが、工夫して対応していきたいところ。

館長補佐

電気代については、今年度、海響みらい電力に切り替えて、実際、かなり金額が上がっているが、なんとかやりくりしている。

委員

環境配慮型で、少しコスト負担しているところか。環境にも配慮しないといけないし、なかなか難しいところだが、博物館の資料を保存する環境も、環境が良くないと、何百年と資料を維持していけない。破損したら終わりなので、気を付けていただきたい。私たちも応援していきたい。

委員

博学連携のあたりで、別紙17に中学校社会科部会は記載があるが、小学校教員も、こういった施設があるということを知ってもらわないといけないということで、8月6日に、博物館を訪れ展示を見させてもらう等した。

館長

記載漏れのため、修正する。

委員

協議会資料9頁「5. その他(5)博物館登録」について、文科省に出す書類等も計画しているが、改めて午前中に拝見し、この歴博の施設活動、改正博物館法における事業の展開等、すべて要件を満たしているので、博物館関係経験者として私は非常に安心して意見書が書けると思っている。この博物館は、きちんと登録を進めているということをご報告いたしたい。

委員

長府の婦人会の会長をしているが、今年の協議会の後、入館者数が少ないということで、20人程の婦人会会議で聞いてみたところ、このうち、この博物館を訪れたことのある人が3割程度だった。しかし、今年度、秋の特別展「昭和100年記念 思い出の下関」については、私も拝見して良かったし、皆も2回行った、懐かしかった等という声をたくさん聞いた。こういう展示であれば、皆興味がある。

委員

本当にこの展示すばらしかった。本当にご苦労様でした。

本来、博物館は静かに観るところだが、私も観覧中に見た光景で、おじいちゃん、お母さん、子どもが、地図や写真を見ながら、おじいちゃんが「これがあるんだけど、昔どうだったんだよね。」と話し、お母さんは、ちょっと知っている、こどもは、初めて見て、「へ～」と関心するような3世代間で会話がなされていた。本来静粛である展示室で、会話があっても、うるさいとは思わなかった。静かに観ないといけないという常識を破った新しいタイプの博物館として高い評価ができると思う。こういうタイプの展示も続けていただければと思う。

#### 館長

実は、開会する前から、今回の展覧会は、たくさんの方が、たくさんのお話をされるだろうと思っていた。もともと博物館は、コミュニケーションをとる場でもあるので、今回の展覧会は、ちょっと騒がしくてもいいのではないかという思いがあった。おじいちゃんがお孫さんにといい、そういう世代を超えた、知らない人に、自分たちが生きた時代を伝えていくというのがすごく嬉しい。

#### 委員

革新的な館長さん、今後も期待している。

#### 会長

令和7年度の事業経過報告について諮り、委員全員の拍手にて承諾とした。令和8年度の事業計画を、事務局へお願いする。

#### (3) 令和8年度事業計画

#### 館長

協議会資料10～11頁「令和8年度事業計画」を読み上げる。

(以下について、一部補足)

- ・協議会資料10頁「2. 展示業務(1) 特別展示①特別展示【秋】」について、DCの関係で、博物館単独ではなく、長府地区全体で博物館10周年事業を計画している。観光やJRとも連携。
- ・協議会資料11頁「3. 資料収集保管業務」について、現在使用している防虫防カビの薬剤が使用できなくなるので、今後の

対策について情報収集を行っているところ。

会長

令和8年度事業計画について、意見聴取・質疑応答を行う。

委員

資料くん蒸について、昨年から問題となっている今まで使用していたエキヒュームSが製造中止になって、県では、来年度からは、改修工事をして、アルプという薬剤を使用する予定だが、経費は以前よりかかる。県立の館同士で同日に実施する等連携して費用をおさえたいと考えている。県下の市町までとなると難しいところがある。状況報告まで。

館長

費用が凄く高いのであれば、下関市内にはいくつか博物館施設があるので、どこか1つの施設が実施する時に併せて実施するなど検討しないといけない。

会長

単純に考えると、県で実施した次の日に、市で実施すると、業者も助かるのでは。

会長

令和8年度の事業計画について諮り、委員全員の拍手にて承諾とした。

#### (4) その他

会長

その他、博物館の運営等に関して、意見聴取・質疑応答を行う。

出前講座で学芸員が学校へ出向くことは増えているが、生徒が博物館に来ることはまだ少ない。小学校6年生までに1回は来館してもらいなど、教育委員会がそういったプログラムを組んでもらえないか。

教育長

市としては、わくわくバスツアー・下関学などを始めている。

4月の小学校校長会でさっそく話を出そうと思っている。市内の学校生徒

が市内全ての館に行ったことがないということがないようにしようとしている。

会長

来年の事業報告をしっかりと拝見させていただく。

委員

小学校へ学芸員がお越しになる出前講座の日を参観日とし、保護者も一緒に学べる機会を作るなどしている。こういった学校としての戦略を今後も続けていきたい。

会長

頑張って続けていただきたい。

委員

年寄りには、足が悪くて行けない等、行きたいけど行けない人も多い。年を取っても勉強したい年寄りにもバスツアー等あるといい。

委員

学生時代、黒板の上に貼ってあった歴史年表を今でもよく覚えている。そういう掲示で、歴史を知ってもらえるような何か工夫をできないか。

また、長府の町が特殊な街であるということを知らない学生が多い。単に城下町というだけでなく、藩があつて、どういう歴史があつてというような背景を知った上で、長府を訪れてもらおうとまた違うと思う。火の山からウォーターフロント、唐戸から長府と連携して、上手に長府を売り込んでほしい。感想です。

委員

私は、北九州に住んでいるが、下関の博物館のことを耳にする機会がない。北九州への情報発信は行っているか。

館長

北九州だけにといいことはないが、全国に向けて情報発信しているつもり。実際、北九州の方は、かなり来ていただいているし、こちらから北九州へ出向いて講座をする機会も結構ある。最近では、SNSでの情報収集が主流になっていることもあり、決められた方向しか見ていないような感覚がある。伝わ

っているところと、伝わっていないところがあり、一部の方には伝っている状況。一方で、関門で事業を展開していこうというような関門連携は以前からしており、今後も継続していきたい。

会長

関門連携は、門司と下関のような感覚がある。小倉まで届いていないような。歴史の部分は、下関の方があるので、お互い無いところを発信して行って、歩み寄ることが必要。

委員

形態が違うとなかなか連携も難しいと思うが、発信はし続けなければいけない。

館長

協議会資料別紙16にあるように結構な数、北九州へ出前講座で行っている。これと別に個人的に講座をお願いされて行くことも度々ある。

委員

学校との連携で、高校が少ないような気がする。小中学校は市立、高校は県立で、市立と県立に何か壁があるせいか。歴史について詳しく勉強するのは、高校で日本史を選択するような生徒。そういった生徒に来てもらえるような施策をした方が良いのでは。最近では、高校の日本史は、探究活動を重視する傾向があるので、地元の資料を使って授業等できるのではないか。

委員

校長会で集まることはあっても、市立から県立へ、こういった話の伝達をすることは無い。今後、そういう場で、話していきたい。下関の歴史文化を学ぼうと訴えていきたい。

会長

他に意見等ないことを確認し、事務局に返す。

事務局

館長より謝意を延べ、博物館協議会の終了を告げる。